

○ “ふれあいの森”（青森県生活協同組合連合会）植樹活動

6月7日（日）、十和田市大字奥瀬字谷地国有林119林班内において、青森県生活協同組合連合会による、ふれあいの森植樹活動が行われました。

当日は雨上がりの霧雨の中ではありますが、青森市や弘前市、八戸市などから集まった会員とその家族の方々約100名が参加し、ブナの苗木200本を植樹しました。

同連合会のふれあいの森は、牛乳パックの回収による収益金を“植林を中心とした森林を守る活動”に役立てることを目的に始まり、今年度で協定締結から4年目、通算で9回目となります。

植樹開始前のセレモニーでは、主催者代表の小野寺常務理事から「今後ともこの植樹活動や牛乳パックの回収運動を通じて、大切な自然環境を守っていきたい。」との挨拶があり、続いて田尻署長の挨拶の後、植樹会場に移動し、藤井法量森林官が模範植樹を行い、参加者全員で植樹を開始しました。

今年も年少の子供と一緒に参加された家族連れが多く見られ、参加者は霧雨の中、慣れないながらも、親子で楽しそうに一生懸命植樹をしていました。

植樹終了後には、晴れていれば八甲田連邦が一望できる湯ノ台展望台に移動し、焼き肉やおにぎりなどを食べ、本日の日程を終了しました。



田尻署長の挨拶



挨拶に聞き入る参加者の方々



植樹の様子（その1）



植樹の様子（その2）